



府食第19号  
平成27年1月13日

食品安全委員会  
委員長 熊谷 進 殿

遺伝子組換え食品等専門調査会  
座長 澤田 純一

遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する審議結果について

平成26年10月28日付け厚生労働省発食安1028第2号をもって厚生労働大臣から食品安全委員会に意見を求められた添加物「GLU-No.6株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム」に係る食品健康影響評価について、当専門調査会において審議を行った結果は別添のとおりですので報告します。

# 遺伝子組換え食品等評価書

GLU-No. 6 株を利用して生産された  
L-グルタミン酸ナトリウム

2015年1月

食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会

### <審議の経緯>

2014年10月30日 厚生労働大臣から遺伝子組換え食品等の安全性に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安1028第2号）、関係書類の接受

2014年11月4日 第536回食品安全委員会（要請事項説明）

2014年11月19日 第132回遺伝子組換え食品等専門調査会

2014年12月2日 第540回食品安全委員会（報告）

2014年12月3日から2015年1月1日まで 国民からの意見・情報の募集

2015年1月13日 遺伝子組換え食品等専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告

### <食品安全委員会委員名簿>

熊谷 進（委員長）

佐藤 洋（委員長代理）

山添 康（委員長代理）

三森国敏（委員長代理）

石井克枝

上安平冽子

村田容常

### <食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員名簿>

澤田純一（座長）

小関良宏（座長代理）

宇理須厚雄                      手島玲子

岡田由美子                      中島春紫

橘田和美                        飯 哲夫

児玉浩明                        和久井信

近藤一成

## 要 約

「GLU-No.6株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム」について申請者提出の資料を用いて食品健康影響評価を行った。

本添加物は、L-グルタミン酸の生産性を高めるため、*Pantoea ananatis* No.359株由来の突然変異株を宿主として、既に安全性の確認が終了したGLU-No.3株にL-グルタミン酸生合成に関与する遺伝子の導入、プロモーター配列の改変及びL-グルタミン酸生合成に関与する遺伝子の欠失を加えて作製したGLU-No.6株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウムである。

本添加物は、食品添加物公定書の含量規格を満たしている。また、従来から生産されているL-グルタミン酸ナトリウムと比較して既存の非有効成分の含有量が安全上問題となる程度にまで増加しておらず、かつ、有害性が示唆される新たな非有効成分を含有していないと考えられる。

本添加物については、「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（平成16年3月25日食品安全委員会決定）の附則「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方」（平成17年4月28日食品安全委員会決定）に基づき、安全性が確認されたと判断した。

したがって、本添加物については、「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（本則）による評価は必要ないと判断した。

## I. 評価対象添加物の概要

名 称：GLU-No.6 株を利用して生産された L-グルタミン酸ナトリウム  
用 途：調味料  
申請者：味の素株式会社  
開発者：味の素株式会社

本添加物は、L-グルタミン酸の生産性を高めるため、*Pantoea ananatis* No.359 株由来の突然変異株を宿主として、既に安全性の確認が終了した GLU-No.3 株に L-グルタミン酸生合成に関与する遺伝子の導入、プロモーター配列の改変及び L-グルタミン酸生合成に関与する遺伝子の欠失を加えて作製した GLU-No.6 株を利用して生産された L-グルタミン酸ナトリウムである。L-グルタミン酸ナトリウムは、食品添加物としての使用が認められており、成分規格が食品添加物公定書に記載されている。

GLU-No.6 株の宿主である *P. ananatis* No.359 株は、ヒトへの有害な影響を及ぼす毒素産生性及び病原性は知られておらず、*P. ananatis* は、国立感染症研究所病原体等安全管理規程におけるバイオセーフティレベル 1 に分類されている。

なお、GLU-No.6 株は抗生物質耐性マーカー遺伝子を有さない。

## II. 食品健康影響評価

1. 本添加物は、製造工程において使用微生物及び発酵副生成物が除去され、晶析により結晶として高度に精製されており、食品添加物公定書の含量規格を満たしている。
2. 本添加物の非有効成分については、最終製品において、
  - (1) タンパク質は検出限界(1 µg/g)未満である。
  - (2) 食品添加物公定書の成分規格を満たしている。
  - (3) アミノ酸分析及び HPLC 法（疎水性及び親水性）による分析の結果、従来品に存在しない不純物は検出されず、また、従来品に存在する不純物は、従来品の含有量の実測値の最大値を上回っていなかった。

以上、(1)～(3)の結果から、従来品と比較して既存の非有効成分の含有量が安全上問題となる程度にまで増加しておらず、かつ、有害性が示唆される新たな非有効成分を含有していないと考えられる。

3. 以上、1 及び 2 の結果から、本添加物については、「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（平成 16 年 3 月 25 日食品安全委員会決定）の附則「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方」（平成 17 年 4 月 28 日食品安全委員会決定）に基づき、安全性が確認され

たと判断した。

したがって、本添加物については、「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」（本則）による評価は必要ないと判断した。

「GLU-No. 6 株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム」に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 平成26年12月3日～平成27年1月1日

2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送

3. 提出状況 1通

4. 意見・情報の概要及び遺伝子組換え食品等専門調査会の回答

意見・情報の概要※	遺伝子組換え食品等専門調査会の回答
<p>少しでも人体に影響のあるものは廃除すべきと考えます。食品業界は利益を追求するために、偽造や自社製品を社長が一切食べないなど有り得ない現状。</p> <p>食は人をつくり、社会をつくる。食べたもので、人は変わる。食を見直すことで国も変わる力があると思います。</p> <p>高齢化による医療費の増大も、北欧のように病気にならない食の安全を国ももっと先頭にたって、進めるべき。</p> <p>優先するのは経済より、いのち。命がなければ、国は存続しません！震災後、今までの社会を見直さなければ日本はなくなります。</p> <p>日本の将来を考えたら、本件は認められるはずがないと考えます。自分の子供に食べさせたいかどうかを基準に判断していただくことを要望します。</p>	<p>食品安全委員会は、国民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下、規制や指導等のリスク管理を行う関係行政機関から独立して、食品に含まれる可能性のある危害要因が人の健康に与える影響について、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正に、リスク評価を行っています。</p>

※頂いた意見・情報をそのまま掲載しています。